

まんが家直伝！ 達人の技で、まんががどんどん上手くなる！

Sho-Comi
まんが
アカデミア

達人に聞け

まんがが上手になりたい！ でも、作画にストーリーに演出…いきなり全てをアップデートするのは難しい。だったら、まずはひとつ自分の“武器”を手に入れよう！ そのためのテクニックを、その道の達人であるまんが家先生に直撃インタビュー。月イチだけのスペシャル連載です！！

第8回 演出の達人

佐野愛莉先生

【仁義なき婿取り】

大物ヤクザの孫娘・愛夏羽は蛇鳴組の若頭・紀羅との愛を確かめ合い、自分の婿に選ぶ。しかし自分は本物の“愛夏羽”ではなく、婿取りまでの身代わりだったと知らされて…。大人気結婚バトルロワイアル！



演出とは物語をどう見せるのかということ。同じストーリーでも、コマ割りや構図、キャラの表情、仕上げなどの演出によって、物語の印象はガラリと変わります。そんな作品の出来を左右する演出で、プロはどういったところを意識しているのでしょうか。今回の達人は、2回目の登場となる佐野愛莉先生。現在連載中の「仁義なき婿取り」でも、映像的なコマ割りや多彩な表情の変化を軸にした、心を揺さぶるダイナミックな演出が印象的です。「読者がパッと見て、何が起きているのか一発でわかること」を心がけているという佐野先生。読者に場面の意図を直感で理解させるには…？ 佐野演出の凄テクに迫ります。

その1 キャラの感情が伝わる“目”の表現バリエーション

映像演出での演技にあたるキャラの表情。表情の中でも、特に目は重要なパーツです。改めて佐野作品を見てみれば、目の表現のバリエーションの多さに驚き！「線の揺れやトーン、黒と白のバランス、光の位置を変えるだけで表情は変わります」と先生。「細かい描きこみの目は少女まんがの命ですが、時には思いっきり引き算するのもアリだと思います」。



通常の目
細かいカケアミにうっとり。白黒の配色、瞳孔と光彩のバランスも絶妙です。

●きらめく光を入れる
↓喜びと驚き



もらった指輪を見つめる愛夏羽。目の光をきらめかせることで、指輪の輝きと喜びがリンクするのも見事。

●光が少なく荒いカケアミ
↓無理して笑う



光のない目で感情の喪失を表現。荒い線は、逆に傷ついた心を隠すために無理していることがわかります。

●白目+瞳孔を開く
↓恐怖と怒りを表現



人間離れた白目で恐怖を、瞳孔の開きでキャラの怒りを表しています。

●揺れる描線
↓涙でうるむ目



輪郭や光彩などの描線の揺れは、そのままうるむ揺れる目を表現。やりすぎない絶妙なラインが美しい。

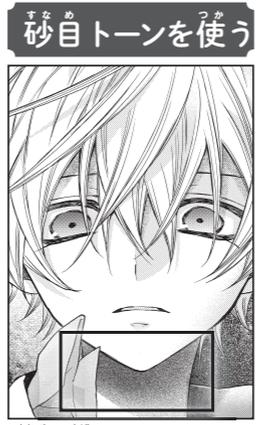
●瞳孔が開き
↓プチギレ！



我を失ったような白目に、瞳孔の線をラフにすることでギャグっぽく。

その2 影トーンを変える

佐野先生が「仕上げで一番重要かも」と言うのが影トーン。影トーンは固定番号にしがちな人が多い中、達人はシーンに合った影を的確にチョイスして、場面の雰囲気を作り上げています。「特に決めコマの影は慎重に選んでいる」んだとか。



「砂目の影にすることで、さらついた感情なんだと思ってもらえるかな」と。気持ちを表現するにも影トーンは有効です。



シリアスな場面では影を濃く。「濃くするだけでシリアスな雰囲気が漂います」。

その3 天候を利用する

天候は、雨が降って相傘…などのエピソードに使うだけでなく、雰囲気を作ったり、話を盛り上げたり、感情を表現したりと様々な演出に使えます。「たとえば、傘をささずに歩くだけで悲壮感が出ます」と先生が言うように、天候は初心者も取り入れやすいのでぜひ挑戦を。



雨が降り出す
場面転換に雨が降り出した様子を入れ、これから不穏なことが起こる暗示を。



空が開ける
言い合いをしていたふたりからの、空が広がる構図。明るい未来を予感させてくれます。

担当が語る 佐野演出のココがすごい!!

「佐野先生の演出で特徴的なのは、映像のようなコマ割りです。天気などの小道具で物語のテンポをコントロールして、表情のメリハリでドラマティックに物語を盛り上げています」(担当編集)



遠雷が聞こえる。嵐の予感はあるつつ、まだ遠い。

●慟哭しつつも無音なのが余計に恐怖を引き立てる。



決めコマで、激しい憎しみの表情をしっかりと。感情を失った最初の表情とのギャップに心が震える。



雷を落とすことで、これまで「静かすぎた」場の空気を変え、めくりの効果を最大限に。

番外編 先生のお気に入り♡

達人自ら「この演出はうまくいった！」という、お気に入りのシーンをご紹介します！

演出がばっちりハマったシーン



「紀羅のグエスが出せたなと思います」
▲愛夏羽が気付いていると知った上で、見せつけるようにキスをする紀羅。キャラより距離感を見せる思い切った構図で、愛夏羽の絶望を際立たせる名演出！「いろんなことを詰め込みたい気持ちではありますが、これだけはやりたい！」というひとつのことにページを割く、力を注ぐ、というのもアリだと思います」と先生。

一番のお気に入りシーン



「どんな風に鼻血を描こうかすごく悩みました」
▲ヒーローがポロポロになるのが「萌え」な佐野先生。「少女まんがのヒーローが鼻血ってどうなの？とは思いましたが…描いちゃいました(笑)」とのこと。「流れる血をそのままに歩き続けるシーンは、セリフがなくても紀羅の怒りを表現できたのかなと思います」と先生が言うように、静かなる闘志をはらむ紀羅の表情に血が効果的に怒りを添えています。

第9回(9号)は コマ割りの達人 水瀬藍先生 お楽しみに!!!